

平成30年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館評価様式（平成30年度事業評価用）

1	展覧会（特別展）	3
	展覧会（企画展）	4
	展覧会（常設展）	7
2	調査・研究	12
3	作品・資料の収集	13
4	作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	13
5	教育普及	15
6	国内外との連携	18
7	安全と快適性	19
8	入場者数と財源の確保	21

和歌山県立近代美術館評価様式（平成 30 年度事業評価用）

<p>美術館長による評価</p>	<p>今年度開催の展覧会について、まず取りあげたいのが、「国画創作協会の全貌展」(11月3日～12月16日)である。これは京都で結成され、近代日本画の革新的な表現領域を切り開いた日本画団体の結成100年の記念特別展だったが、当館にとっても、和歌山ゆかりの野長瀬晩花をはじめ、土田麦僊や村上華岳ら近代日本画を代表する作品が一堂に並ぶまたとない機会となり、全国的にも注目される貴重な展覧会となった。企画展については、当館のコレクションの核をなす版画について「産業と美術」という果敢な切り口から紹介した展覧会(4月14日～6月24日)、夏休み企画として定着し、年間をとおしてもっとも来館者を集め、8回目となる「なつやすみの美術館 8『タイムトラベル』」(7月8日～9月18日)、そして洋画や版画、彫刻をはじめ、当館のコレクションがすなわち日本の近代美術のひとつの柱を形成していることを示し、「近代」美術館としての活動にも切り込んだ「和歌山-日本」展(9月8日～10月20日)など、併設して開催した5本の常設展示や特集展示とともに、美術館活動の生命線である「コレクションと展覧会の連動」をふまえた個性豊かな展覧会を開催できたことは評価できる。作品収集については、平成28年度の当館特別展「動き出す!絵画 ペール北山の夢」の調査成果である岸田劉生の新出作品を購入する機会に恵まれたことも特筆されよう。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>「国画創作協会の全貌展」は、同協会の回顧展としては25年振りであり、地元出身の野長瀬晩花の代表作も展示され、和歌山で開催するに相応しい大展覧会であった。企画展では、視野の広さをうかがわせるユニークな企画となった「産業と美術のあいだで」、例年、学校の宿題を通じて中学校を中心に連携を行い、多数の来館者がある「なつやすみの美術館 8」、館長企画の「和歌山-日本」など、所蔵品を中心とした着実な活動を継続している。常設展示や特集展示では、和歌山の所蔵品だけでなく、現在休館中で作品の寄託を受けている滋賀県立近代美術館のコレクションも上手く活用している。ただし、殆どの展覧会で、制作費が捻出できず図録を発行できないことや、一般客への親しみやすいアプローチ、早めの広報活動とその方法等に関して課題が残る。収集の面では、少ない予算で貴重な作品を購入し成果を挙げており、展覧会や調査研究に加え、関係者との信頼関係が結果として収集に繋がっているのは喜ばしい。さらに、自館での展覧会活動に加え、島根県立石見美術館、岡山県立美術館への数百点に及ぶまとまったコレクションの貸出にも積極的に協力しており、現場の苦労が偲ばれる。予算は少ないながら着実な活動を続けており、美術館としての責務を果たしている数少ない美術館だといえる。</p>

1 展覧会（特別展）

美術館長による所見	一般財団法人地域創造の助成を得て「国画創作協会の全貌展」を、同会結成 100 年を機に当館ほか 2 会場巡回で開催できたことは得難い機会であり、新たに発掘した作品も含めまさにその「全貌」に迫り、美術館連絡協議会の「奨励賞」を受賞するなど、高い評価を得た。
評価部会による所見	「国画創作協会の全貌展」で、これだけ充実した作品が和歌山に集まったことは評価すべきである。朝日新聞社への協力依頼など、広報活動において一定の努力は認められるが、客足が期待ほど伸びなかったことが悔やまれる。各メディアやロータリークラブ等への早めのアプローチが必要である。

①特別展-1

国画創作協会の全貌展

会 期：11 月 3 日（土）～12 月 16 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰の 5 人によって、1918 年に設立された国画創作協会は、今年創立 100 年を迎える。本展では、同協会の展覧会出品作のうち現在所在が確認される約 100 点の日本画を中心に、その全貌を展観する。
自己評価・課題・改善案	第 1 回～第 7 回までの国画創作協会展覧会(国展)出品作および、関東大震災による国展の休止中に開催された大阪毎日新聞社・東京日日新聞社主催日本美術展覧会(日本美術展)出品作のうち、現在所在が判明している約 90 点を中心に紹介。当館は笠岡・新潟会場よりも多くの作品を展示することができ、ガラスケースの配置など制約もある中で、できるだけ時代順に国展の流れを通覧できるよう工夫した。美術館連絡協議会の「2018 美連協大賞 奨励賞」を受賞。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	図録、ポスター、チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。図録では作家の顔写真など割愛した情報も多く、出品目録等の英訳も断念したため、海外向けの積極的な情報発信には至らなかった。今後は、多言語化も視野に入れた展開を考えたい。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	講演会を 2 回、ワークショップ&バスツアーを 1 回、こども美術館部を 1 回、フロアレクチャーを 2 回開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会を 3 回、解説会を 4 回(フロアレクチャー 2 回、こども美術館部 1 回、だれでも美術館部 1 回)、晩花の生地・近露を訪ねる NPO 主催によるワークショップを 1 回開催した。イベントは盛況で概ね好評をいただいた。また、ロータリークラブでの卓話等の取り組みを行った。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	全出品作品に作家解説・作品解説を付ける。関連事業等で、和歌山県田辺市出身の野長瀬晩花や、国画創作協会と和歌山との関係を詳しく紹介する。
自己評価・課題・改善案	図録・会場パネルともに、全出品作品に作家解説・作品解説を付けた。ただし、解説パネルの文字が小さく、特に高齢者に負担を強いたため、今後改善したい。関連事業の講演会のほか、御坊・田辺のロータリークラブの卓話で、和歌山出身の野長瀬晩花や、国画創作協会と和歌山との関係を地図等を使って詳しく紹介した。道成寺ゆかりの村上華岳《日高河清姫図》については、新出の情報や図版とともに論考を美術館ニュースでまとめた。一方、輸送費削減のため、出品を断念した作品もあり、輸送ルートの工夫や、計画的な予算編成が課題。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	出品作品・資料・来館者の安全確保を行った。仮設ケースを設置して、借用作品の殆どを保護することができたが、共同開催館にはいくつか露出展示をお願いした。会期中に地震が発生したこともあり、今後は最大限の費用を確保し、全ての作品の保全に努めたい。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,028 人

1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	当館の所蔵作品を駆使して、美術館活動の根幹を成す「コレクションと展覧会」の連動をはかり、本年も新たな切り口によって3本の「企画展」を開催し、それぞれの展覧会によって、和歌山県立近代美術館の個性を発信できたことは有意義であった。
評価部会による所見	「産業と美術のあいだで」は一般客への親しみやすいアプローチが必要と感じられる面もあったが、版画のコレクションを活かしたユニークな企画として高く評価できる。「なつやすみの美術館 8」は台風や気候、夏休みの短縮化等の影響で、例年より客足がやや減少したが、一定の水準を保っている。「和歌山—日本」は、近代美術の人気が低下している今、改めて「近代」を問い直す熱のこもった企画であった。

②企画展-1

産業と美術のあいだで

会 期：4月14日（土）～6月24日（日）

会 場：展示室 C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	当館が所蔵する版画の名品を中心に、身の回りの様々な印刷術がひとの創造力を刺激して美術作品が生まれてきた側面を紹介し、アートがもっと身近になる機会を設ける。
自己評価・課題・改善案	印刷術という一つの産業が、いかに美術表現を豊かで新鮮なものにしてきたかを印刷資料、版画、絵画などを通して提示した。実用的な需要に応えるあいだに、版の創造的な側面が活かされ、現代版画の名作や力作が生まれていることを示し、現在の技術が、美術に与える新しい美術表現を予期しながら、日常に寄り添い、日常を超えていく創造力を持つことを感じられる展示とした。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	フロアレクチャーを 3 回開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 3 回、こども美術館部を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	時代と共に版画の概念が拡大していく様子を、展示構成を工夫して分かりやすく示す。
------------	---

自己評価・課題・改善案	版画だけでなく他のジャンルにも印刷術の影響があることに焦点をあて、より豊かな広がりのある美術の世界を紹介できた。また、当館がこれまで収集してきた謄写版資料や、個人蔵の印刷物コレクションをあわせて紹介したことで、自分たちの身の回りにある表現について、再考を促すことができた。
-------------	--

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,632 人

②企画展-2

なつやすみの美術館 8「タイムトラベル」

会 期：7月8日（土）～9月18日（月・祝）

会 場：展示室 C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	作品の持つ時間という側面に注目することで作品鑑賞体験への導入を図る。
自己評価・課題・改善案	様々な観点から作品への接近を行えるよう 10 のテーマを設け、宇宙的な長い時間から身近な時間へと展示を構成した。また簡易な作品の解説とともに、作家解説も準備して一般的な知識への要求にも応えた。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、各種ワークシートを制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録、出品作家解説、ワークシート 3 種(小学生版、中学生版、高校生版)、和歌山大学学生によるワークシートを制作した。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	フロアレクチャーを 2 回、子どもギャラリートークを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	ギャラリートークを 2 回、子ども美術館部を 1 回、だれでも美術館部を 2 回、ワークショップを 1 回、和歌山大学学生による作品鑑賞会を 21 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	特に来館者が増える時期となるため、作品と来館者の安全を十分に確保できる展示を行う。またわかりやすい解説パネルの掲出や積極的な制作活動を行うためのエリアを設置し、幅広い年齢層がそれぞれ新しい鑑賞体験を得るためのきっかけを作る。
自己評価・課題・改善案	2000 年後の現在をテーマに制作している柴川敏之氏の協力を得て、ワークショップを開催するとともに、作品を出品いただいたことで、展示に広がりを持たせることができた。テーマに沿った制作を行えるワークスペースを設けることで、内容理解を深めることができた。館蔵作品を中心とする展示であるが、新しい角度からの視点を得るために、今後も作品の借用ができることが望まれる。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	9,955 人

②企画展-3

和歌山—日本 和歌山から近代・美術、そして近代美術館を見つめる

会 期：9月8日（土）～10月20日（木）

会 場：展示室 C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	和歌山の美術を見れば「日本」の美術がわかる。和歌山ゆかりの作家たちの作品で「日本」の近代美術が語れる。「地方から中央へ」の視点を、当館の珠玉のコレクションで構成、紹介する。
自己評価・課題・改善案	当館の代表的な収蔵品を 6 つの章により展示し、和歌山の近代美術が日本の動向の一面を物語る存在感を示していることを再考する機会とした。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	フロアレクチャー 2 回、こどもギャラリートークを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャー 3 回、だれでも美術館部 1 回、こども美術館部 1 回、上映会+シンポジウム「近代の文化遺産を守る—寂光院とその襖絵を中心に—」を開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	「和歌山—日本」の視点から近代美術の再考を試みて、同時に県立の近代美術館として有数の規模を誇る当館コレクションのその意義を再確認する。
自己評価・課題・改善案	近代美術館の位置づけについても問題提起するとともに、和歌山市内の寺院・寂光院の解体に伴う緊急調査で発見された黒住章堂の襖絵も展示し、会期中にはこの活動に携わった県内の文化財関係者によるシンポジウムを開催した。シンポジウムが契機となり、作家の遺族が判明したほか、作者の故郷にある岡山県立美術館での「黒住章堂展」や同館への寄託へとつながった。また特別出品として、竣工 80 年記念となる和歌山県庁竣工時建築図面を紹介した事をきっかけに、展覧会終了後、関係者によるシンポジウムの開催にも発展し、図面の今後のよりよい環境下での保管について関係者間で協議が始まっている。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,486 人

1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	今年度も、当館が開館して50年近い年月に収集したコレクションを駆使して、それぞれに特色ある5本の常設展を開催し、多様な切り口によって紹介するとともに、休館中の滋賀県立近代美術館の協力を得て、同館が所蔵する作品を含めた特集展示も企画するほか、鈴木昭男氏の協力を得て「サウンド・アート」のジャンルにも切り込むなど、多様な展開を示すことができた。
評価部会による所見	いずれも努力と工夫の跡がうかがえる。滋賀県立近代美術館のコレクションが上手く活用されているほか、パフォーマンス・アートの先駆者を紹介し、入場者数の比較的多かった「鈴木昭男」展の、観客が自ら「音具」に触れることのできる参加型のコーナーも特筆される。

③常設展-1

コレクション展 2018- 冬春 特集 はじまりの景色／院展の画家たちⅠ [平成29年度事業評価より再掲]

会 期：[1月4日（木）]～4月15日（日）

会 場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成30年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。また、改築にあわせて滋賀県立近代美術館から寄託された作品により、当館の現代美術コレクションに厚みをもたせた展示を行う。 特集展示 新年・新年度の特集として「はじまりの景色」を設け、作者が初期作品を展開させる過程や、スケッチから本画へのプロセスなど、生まれ、成長する表現の魅力を紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 明治以降の日本近代美術の展開を時代を追って紹介するとともに、滋賀県立近代美術館より寄託された戦後アメリカ美術の優品を展示した。 特集展示 「院展の画家たちⅠ」では下村観山を中心に、古画の学習という切り口で、院展の画家による作品を紹介した。／「はじまりの景色」では美術作品を「はじまり」という視点から見直した。春・朝・芽生え・誕生をテーマにした作品、線や色、かたちという、造形のはじまりになる要素を取り上げた作品のほか、作り手が初めて作った作品、そして連作のはじまりとして「No.1」がタイトルに冠された作品をとりあげた。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成30年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせて出品目録、プレスリリース、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

平成30年度目標	常設展示 フロアレクチャーを1回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを2回、スライドレクチャーを1回開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせてフロアレクチャーを3回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成30年度目標	常設展示 解説パネルなどを設け、当館のコレクションへの関心を高める。 特集展示 作品が成立する起点をを有機的に示すことにより、作品を読み解く楽しみを提示する。
----------	--

自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 準備時点では滋賀県立近代美術館の作品がいつ寄託になるか判明していなかったため、プレスリリース等を用意して周知できなかったことが課題として残った。</p> <p>特集展示 「院展の画家たちⅠ」では作家解説・作品解説のパネルを設け、展覧会を充実させることができた。／「はじまりの景色」では連作のはじまりは、作者が仕事を続けていく支えになっていることがわかり、制作が意識的に継続されて実現されているものであることを提示できた。</p>
-------------	--

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,860 人[4 月 1 日～4 月 15 日の入館者:448 人]

③常設展-2

コレクション展 2018- 春夏 特集 高橋力雄の木版画／院展の画家たちⅡ

会 期：4 月 28 日（土）～7 月 8 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	<p>常設展示 コレクションの特色を生かし、明治、大正、昭和という時代の流れに沿って所蔵作品への理解を深められるよう近現代美術の秀作を展示するとともに、改築にあわせて滋賀県立近代美術館より寄託された作品により現代美術の展開を紹介する。</p> <p>特集展示 恩地孝四郎に強い影響を受け木版による抽象表現を続けた高橋力雄(1917～1998)の作品を紹介する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>常設展示 当館と滋賀県立近代美術館の所蔵品をあわせて、「和歌山ゆかりの作家と近代美術 明治・大正」「和歌山ゆかりの作家と近代美術 昭和」「アメリカ抽象表現主義と現代美術」のコーナーを設けた。</p> <p>特集展示 「院展の画家たちⅡ」では、滋賀県立近代美術館の日本画コレクションの中から、今村紫紅に感化を受け、紅児会や赤曜会で活動し、明治末から大正期に院展の若手として注目された作家たちを取り上げた。／「高橋力雄の木版画」では、平成 18 年度から平成 19 年度にかけて寄贈を受けた 1950 年代から 90 年代までの作品と、作者が実際に使用していた道具類を展示し、戦後の荒廃した時代から古都を巡り「日本の美感」を抽象表現に展開した、その歩みを紹介した。</p>

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	常設展示、特集展示とも出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせてプレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	特集展示 フロアレクチャーを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 3 回実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	<p>常設展示 季節感を感じさせる作品を紹介する。</p> <p>特集展示 高橋力雄の作品の魅力を示すとともに、戦後の木版画の表現を紹介し、同時代の表現の広がり共通性をともに示す。</p>
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも、寄託された滋賀県立近代美術館所蔵作品を活用し、当館のコレクションと合わせて近代から現代にいたる美術の魅力を示すことができた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができたが、現状では監視員の絶対数が不足している。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,477 人

③常設展-3

コレクション展 2018- 夏秋 特集 鈴木昭男 音と場の探究／院展の画家たち III

会 期：8月4日（土）～10月21日（日）

会 場：展示室 A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。滋賀県立近代美術館の所蔵品と当館所蔵品を合わせ「院展の画家たち」のコーナーを設ける。 特集展示 サウンド・アートの先駆者として知られる鈴木昭男（1941～）の活動を紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 和歌山ゆかりの作家から戦後アメリカの抽象美術までを3つのコーナーで紹介した。 特集展示 「院展の画家たち III」では滋賀県立近代美術館の日本画コレクションから富田溪仙の作品を取り上げた。／「鈴木昭男 音と場の探求」では、サウンド・アートの開拓者と言べき鈴木昭男の経歴を創作音具やポスター・チラシ、雑誌記事などの資料で詳細にたどる展示とした。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 作家解説、出品目録、英語版概要を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録を制作した。 特集展示 チラシ（熊野古道なかへち美術館 開館 20 周年記念特別展「鈴木昭男 -内 在-」と共通）、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	常設展示 フロアレクチャーを3回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを3回開催する。
自己評価・課題・改善案	特集展示 ギャラリートークを2回、鈴木昭男氏によるトークとパフォーマンス、クローズングイベントを実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	常設展示 同時期開催の企画展に関連するコーナーを設け、理解を深められるようにする。また、滋賀県立近代美術館からの寄託品とともに、当館所蔵品の魅力を紹介する。 特集展示 鈴木昭男の軌跡を、これまであまり知られていない 1970 年代の活動を中心に、作家が所蔵する作品や資料を展示することで紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも多くの来館者が期待される時期のため、空間を広く取り死角の少ない展示構成を試みた。鈴木昭男展では資料が中心となるため、パフォーマンスは映像で紹介するとともに、鈴木昭男の音具に観客がさわって音を出せるような工夫も行った。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,928 人

③常設展-4

コレクション展 2018- 秋冬 和歌山ゆかりの作家たち

会 期：10 月 30 日（火）～12 月 24 日（月・祝）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。
自己評価・課題・改善案	展示全体を「和歌山ゆかりの作家たち」と題して 4 章で構成し、同時期に開催されている「国画創作協会の全貌展」の同時代の美術の動向から、現代にいたる作品を展示した。また、「国展の版画」を特集として紹介した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	出品目録、作家解説、出品目録、英語版概要を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 30 年度目標	フロアレクチャーを 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 2 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	特別展「国画創作協会の全貌展」と同時期に 2 階展示室で開催するため通常の 2/3 の規模となり、関連性のある内容を工夫する。
自己評価・課題・改善案	国画創作協会に参加した作家の同展出品作以外の作品や、同展に出品された版画作品など、関連作品の展示を行った。また滋賀県立近代美術館からの寄託作品を活かし、クリフォード・スティル、マーク・ロスコ、岡田謙三という 3 作家の作品を対比して展示するコーナーを設けた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,911 人

③常設展-5

コレクション名品選

会 期：平成 31 年 1 月 4 日（金）～1 月 20 日（日）

会 場：展示室 B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 30 年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマに沿って秀作を展示する。
自己評価・課題・改善案	通常のコレクション展の 1/3 の規模となるため、和歌山ゆかりの代表的な作家と、同時代の主要な作品など、所蔵作品の中でも選りすぐった作品で構成した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 30 年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した

C. 関連事業

平成 30 年度目標	フロアレクチャーを 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	こども美術館部を 1 回、だれでも美術館部を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 30 年度目標	県展が展示室 A と C での開催となり、通常の 1/3 の規模となるため、所蔵品からよりすぐった作品で構成する。
自己評価・課題・改善案	滋賀県立近代美術館からの寄託作品も活用し、ロスコとピカソの作品による展示空間も設け、広がりのある展示とすることができた。無料としたこともあり、県展来場者にも当館コレクションに親しんでもらう流れを作ることができた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 30 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料・来館者とも事故なく会期を終えることができたが、展示室 B の出入口を開放すると空調が安定せず、調整が困難であった。今後なんらかの対策を取る必要がある。

F. 入館者数

平成 30 年度目標	2,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,820 人

2 調査・研究

美術館長による所見	学芸員がそれぞれに担当する展覧会に関して、あるいは長期的な展望のもとに「調査・研究」の主題を掲げ、別添の協議会資料にも掲載した活発な「調査・研究」成果の活用を行い、近現代の美術研究に寄与している。
評価部会による所見	学芸員それぞれが数多くの研究活動を行っており、着実に深化された研究は、展覧会内容や収集活動等に還元されている。一方、殆どの展覧会で図録を残せていないことは、記録や普及の面で以前から問題視しており、印刷物の予算編成については再三改善を求めている。

①調査・研究

A. 美術に関する調査・研究件数

平成 30 年度目標	美術に関する調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	学芸員各自がそれぞれの主題に関する調査・研究を行った。(協議会資料 17 頁①1)

B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

平成 30 年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	13 件の共同活動をを行った。(協議会資料 17 頁 ①2)

②調査・研究成果の活用

A. 展覧会・教育普及活動等への成果の反映

平成 30 年度目標	展覧会・教育普及活動等に成果を反映する。
自己評価・課題・改善案	22 件の成果があった。(協議会資料 18 頁 ②1)

B. 学術的公表 (館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)

平成 30 年度目標	学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)を行う。
自己評価・課題・改善案	22 件の学術的公表を行った。(協議会資料 18-19 頁 ②2)

3 作品・資料の収集

美術館長による所見	限られた購入予算ではあるが、展覧会の調査・研究の成果として、近年ほとんど入手の機会も少ない岸田劉生の新出作品を購入し、加えて多数の貴重な寄贈作品を当館コレクションに加えられたことは、高く評価できよう。
評価部会による所見	収集の面では、貴重な作品を購入し成果を挙げており、展覧会や調査研究に加え、関係者との信頼関係が結果として収集に繋がっているものと評価できる。

①作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

平成 30 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行った。収蔵庫の狭溢化に伴い、保管方法の工夫と注意が課題である。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

平成 30 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	購入 1 点・受贈 13 件 223 点で、点数、内容ともに適切であった。（協議会資料 20-23 頁）

②図書資料の収集・公開

A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

平成 30 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用した。（協議会資料 24-26 頁）

4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	後世に貴重なコレクションを引き継いでいくために、常に作品の状態を調査し、保存修復につとめることは、美術館活動の貴重な柱である。当館では、折りをみて専門保存修復家を招聘し、専門的見地から、学芸員の意識の向上につとめるとともに、その技術水準についても、当館学芸員は、高い見識を有している。
評価部会による所見	予算の範囲内で、十分な専門知識を有した保存修復家を招聘し、必要な処置を可能な限り進めている。

①作品・資料の状態調査

平成 30 年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額裏板の改良・交換を中心に処置を進めた。（協議会資料 27 頁）

②作品・資料の保存環境

平成 30 年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。空調設備の老朽化に伴う環境の不安定要素への対応が課題である。(協議会資料 27 頁②)

③作品・資料の保存修復

平成 30 年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	館外の保存修復専門家による状態調査を実施・記録し、修復が必要と判断された作品のうち、優先順位の高いものについて処置を実施した。

④作品・資料の管理

作品・資料の管理 (台帳・データベース)

平成 30 年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	作品の状態調査、展示、貸出記録、台帳・データベースの管理を日常的に実施、更新処理を行った。

⑤作品・資料のデータ公開

平成 30 年度目標	作品・資料のデータを公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載した。インターネットを通じて公開する所蔵作品情報を充実させることが課題である。

5 教育普及

美術館長による所見	当館の教育普及活動については、毎年恒例の「なつやすみの美術館」における児童・生徒を対象としたワークショップの開催や独自の教材開発などを経て、すでに高い定評を得ていることは周知のとおりであり、本年度も学校・団体鑑賞の受入でも、当初目標を大きく上回る成果を示している。
評価部会による所見	学校等との連携が実を結んでおり、特に「なつやすみの美術館」展での高い集客力と積極的な普及活動には注目される。ただし、活動を継続するため、学校の教員の異動等については、臨機応変な対応が必要である。また、その都度ターゲットにする地域を絞り込んで広報・普及活動を行うなど、戦略的なアプローチを工夫されたい。

①学校・団体鑑賞の受入

A. 受入回数

平成 30 年度目標	120 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	274 件を受け入れた。(協議会資料 28 頁①)

B. 参加者数

平成 30 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,715 人が参加した。(協議会資料 28 頁①)

C. 鑑賞教材等の制作

平成 30 年度目標	展覧会にあわせて鑑賞教材を制作する他、教員への利用促進案内等を制作する。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館」展で鑑賞教材を 3 種類制作した。各展覧会では「こども美術館部」において教材を用いた鑑賞に取り組んだ。常備できるガイド等の制作が課題である。

②講演会・解説会等

A. 講演会等の回数

平成 30 年度目標	25 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	34 回実施した。

B. 講演会等の参加者数

平成 30 年度目標	500 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	847 人が参加した。

③ワークショップ・バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート

A. ワークショップ等の回数

平成 30 年度目標	6 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5 回実施した。(コンサート 1 回、ワークショップ 2 回、バックヤードツアー 2 回)

B. ワークショップ等の参加者数

平成 30 年度目標	80 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	188 人が参加した。

④ 県民や地域との連携

A. ボランティア活動の受け入れ

平成 30 年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる
自己評価・課題・改善案	延べ 202 人の活動を受け入れた。(協議会資料 29 頁④1)

B. 友の会等の支援組織の活動への協力

平成 30 年度目標	友の会、NPO 等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館友の会の活動や、和歌山芸術文化支援協会によるワークショップなどに協力した。(協議会資料 29-30 頁)

C. 学校・教員等と連携した事業

平成 30 年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート製作などに取り組む。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	中学校教科等別研修会の開催、和歌山美術館教育研究会を 11 回開催するなど、学校や教員と連携した事業を実施することができた。(協議会資料 30-31 頁)

D. 地域と連携した事業

平成 30 年度目標	地域と連携した事業を行う。第 72 回和歌山県美術展覧会(県展)、第 4 回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う。マジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	県立高等学校の保有する美術作品の調査を行った。第 72 回和歌山県美術展覧会、第 4 回ジュニア県展を実施した他、県警音楽隊たそがれコンサートやマジカルミュージックツアーなどへの協力を行った。(協議会資料 31-32 頁)

E. 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

平成 30 年度目標	県立 4 館が連携して風土記まつりを実施する。図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施する。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の一員として活動する。
自己評価・課題・改善案	県立 4 館が連携して風土記まつりを実施した。また図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施した。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の活動に幹事館として参加した。和歌山県文化振興財団や和歌山県福祉事業団の事業に協力した。

F. 観光資源として活用できる方策

平成 30 年度目標	近隣の宿泊施設にチラシ等を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	県内各地の教育委員会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等への利用アピールを行った。

⑤人材育成

A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

平成 30 年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	4 大学 5 名の博物館実習生、延べ 75 名の職場体験学習およびインターンシップ等を受け入れた。(協議会資料 33 頁)

⑥機関誌「NEWS」の刊行

平成 30 年度目標	機関誌を年 4 回刊行する。
自己評価・課題・改善案	年 4 回、各 2,500 部を発行した。

⑦県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

平成 30 年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	作者や展覧会等についての問い合わせ 7 件に対応した。

⑧メディア等への情報発信

A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

平成 30 年度目標	掲載 150 件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	新聞・雑誌に 91 件掲載された他、NHK WORLD-JAPAN の番組で取り上げられた。

⑨WEB による広報

A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

平成 30 年度目標	ホームページ月間ページビュー数 15,000 件、更新回数は 24 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	ホームページ月間ページビュー数約 22,855 件、新規ページの作成は 57 回であった。

B. メールマガジン等の発行回数・工夫

平成 30 年度目標	12 回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
自己評価・課題・改善案	メールマガジンは 11 回発行。登録読者数 html 版 566 名、テキスト版 32 名、計 598 名 Facebook のいいね! は 1,647 件、twitter のフォロワーは 3,777 件。

⑩広報印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

平成 30 年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	広報印刷物を制作し、情報提供・広報活動に努めた。

6 国内外との連携

美術館長による所見	当館コレクションの他館展覧会への貸与件数についても、公立館として高い水準を保つとともに、今年度は、島根県立石見美術館や岡山県立美術館、2会場における当館コレクションの名品展の開催によって、貴重な連携の場を提供した。
評価部会による所見	自館での展覧会活動に加え、島根県立石見美術館、岡山県立美術館への数百点に及ぶまとまったコレクションの貸出にも積極的に協力し、和歌山の質の高いコレクションを他府県へも発信しているのは評価すべきである。

①他機関への作品・資料の貸出し

平成 30 年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	13 の展覧会に対して作品の貸付を行った。(協議会資料 36-38 頁)

②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

平成 30 年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。
自己評価・課題・改善案	熊野古道なかへち美術館の開館 20 周年記念特別展「鈴木昭男 一内 在」 と連携して特集展示「鈴木昭男 音と場の探究」を実施した他、島根県立石見美術館で「モダン・アートに会う 5 つの扉 - 和歌山県立近代美術館名品展」(平成 30 年 4 月 21 日～6 月 17 日)、岡山県立美術館で「新たな表現をめざして 創作版画が歩んだ道のり」(平成 30 年 10 月 5 日～11 月 4 日)を開催し、当館の収蔵作品や活動を広くアピールした。

7 安全と快適性

美術館長による所見	新館の開館からほぼ25年が経過し、施設・設備のハード面における保守管理が急務である。今年度は、年度末に休館の処置をとり、まず空気調和設備の改修工事を実施し、快適な鑑賞機会の提供と、所蔵作品の保管環境の整備を行った。今後は、照明器具のLED化にむけての対策を含め、継続して鑑賞環境の整備の充実をはかりたい。
評価部会による所見	予算の範囲内で、十分な専門知識を有した業者と相談し、必要な処置を可能な限り進めている。多言語化への対応等、未整備の部分に関しては今後検討されたい。

①施設・設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

平成30年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	施設・設備の定期的な保守管理、日常のメンテナンスを行うとともに、経年劣化による修繕箇所を把握し、空調設備、ブロック塀改修、所蔵美術作品修復等の修繕を予算の範囲内で実施することにより安全確保を行った。

B. 施設・設備の改修や新たな整備

平成30年度目標	経年劣化による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	空調設備改修工事を実施した。照明器具取替工事の設計を実施した。経年劣化等に対して必要な修繕を行うとともに、アプローチプラザ大庇内の雨水配管破損による雨漏りの修繕を行った。また空調設備改修設計を実施するとともに、照明器具の更新に向け財政局と協議を行った。外壁の改修、特定の雨漏り箇所の修理が課題である。

C. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持・衛生管理

平成30年度目標	日常的なメンテナンス等により施設の美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。また、入口付近の清掃を実施し、施設の美観等衛生管理を行った。

D. 長期修繕計画

平成30年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	空調設備等修繕、雨水配管、階段石貼替えを予算範囲内で実施した。また、今後必要な大規模な修繕として、外壁の特定雨漏り箇所修繕、収蔵庫増設工事の修繕計画を作成するとともに、計画が予算化されるよう、県財政局と折衝していく。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

平成30年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	必要に応じて点字ブロック等の改修を行った。

B. 利用者に対する接遇

平成30年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	利用者に対する接遇を適切に行うよう職員の教育を行った。

C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

平成 30 年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図ったが、恒常的な雨漏りの修繕が行えないままである。

③危機管理

A. 危機管理・防災体制

平成 30 年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	地震及び火災時の避難訓練を実施した。

B. 個人情報の保護・データ管理

平成 30 年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展覧会等関連イベント参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

④職員研修

A. 館内外の研修参加実績

平成 30 年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり 2 回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	機会がある毎にできるかぎり研修会等に参加した。

⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

A. 使命、目標、計画などの方針の公開

平成 30 年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	http://www.momaw.jp/mission.php に公開している。

B. 実績や評価結果の公開

平成 30 年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	http://www.momaw.jp/assessment/assessment.php に公開している。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

平成 30 年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

平成 30 年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。

E. 調査結果等を反映した運営

平成 30 年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	階段や床の汚れを清掃した。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	年度末の空調工事のための休館も重なったとはいえ、入場者数の目標値達成とともに、入館料収入の達成が及ばなかったことは反省すべき事柄である。また、今年度は「国画創作協会の全貌展」で一般財団法人地域創造の助成金を得たが、今後はさらなる多様な助成金の獲得に向けて努力する。
評価部会による所見	助成金を獲得するには申請や報告等にも労力が必要だが、より充実した展覧会の実現のため、非常に努力している。目標人数については、達成できるよう次年度へ向けて努力してもらいたい。施設改修のための休館期間があり、また広報印刷物の制作費や、広報費が不足している現状では、目標の設定自体に無理があるとも考えられる。

①入場者数

A. 入場者数

平成 30 年度目標	入場者数は 50,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	36,685 人

②予算の確保

A. 入館料収入 達成率

平成 30 年度目標	当初予算 6,124 千円に対する達成率を 100 パーセントとする。
自己評価・課題・改善案	入館料収入は 3,441 千円、達成率 56.2%で目標を達成できなかった。今後は広報活動の充実を図り、有料入館者数の増加を目指す。

B. その他の収入確保

平成 30 年度目標	駐車場収入 5,538 千円、行政財産使用料 1,586 千円、その他 1,342 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入 4,123 千円、行政財産使用料 1,612 千円、その他 962 千円で、行政財産使用料以外は目標を下回った。今後は美術館・博物館の利用促進を目指し、広報活動の強化を図る。

C. 外部助成金等の獲得

平成 30 年度目標	助成金 9,854 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	三菱UFJ信託地域文化財団助成金より 500 千円、一般財団法人地域創造より 6,856 千円を獲得した。今後も外部資金の獲得に向け更なる努力を行っていく。